

12. トピックス

12. 1. 第3回シニア講座「腰痛のことを学んでもっと健康に！」

9月19日（火）～20日（水）、「畿央大学シニア講座」を開催しました。今回は、「腰痛のことを学んでもっと健康に！」をメインテーマとし、1日目には座学による講義「腰痛のことを正しく知ろう！」（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター 大住倫弘 特任助教）、2日目には軽いストレッチを交えた講義「なぜ腰痛を治すために運動が必要なのか？」（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/麻酔科・痛みセンター 住谷昌彦 准教授）を開講し、最新の知見を学んでいただきました。



東大附属病院の住谷先生より腰痛のメカニズムを説明頂き、腰痛を治すには運動がなぜ必要なのか講演して頂きました。その後、大住先生と共に効果のあるストレッチを実践し、短時間でしたがみなさん効果を実感されていました。

1 2 . 2 . 畿央祭ウエルカムキャンパス

「運動の器用さにチャレンジしてみよう！」

ニューロリハビリテーション研究センター 特任助教 信迫悟志 先生と、教育学部 准教授 古川恵美 先生のゼミ生 17 名は、『子どもたちへ「運動の器用さにチャレンジしてみよう！！」』と題したイベントを開催しました。この企画は、3-16 歳までの子どもたちに、運動の器用さと運動学習力を測定する機会を提供するものです。2 日間で約 100 名の子ども達（保護者を合わせると約 200 名）が足を運んでくれました。台風で足場が悪く、また開催時間が短縮されたにも関わらず、多くの子ども達や保護者の方に参加して下さいまして、誠にありがとうございました。将来、教職に就くことを目標としている教育学部の学生たちにとっても、子どもたちに接する良い経験になったと思われます。



12.3. 畿央祭ウエルカムキャンパス 「腰痛チェックをしてみよう！」

ニューロリハビリテーション研究センター 特任助教 大住倫弘 先生と、健康科学研究科 大学院生らは、『腰痛が気になる方へ「腰痛チェックをしてみよう！」』と題したイベントを開催しました。この企画は、①自分の腰の柔軟性・運動のスムーズさを無線センサで記録、②腰痛ストレスを脳波で計測、③痛みに対しての認識をアンケートで記録して、それらの結果を口頭でフィードバックするイベントです。2日間で70名以上の方々に参加して頂き、一緒に腰痛について話し合うことができ非常に勉強になりました。また、理学療法士である大学院生の方々の丁寧な対応は素晴らしく、参加された方々の腰痛を多面的にチェックして頂きました。予想をはるかに超えるニーズがありましたので、今後はさらにバージョンアップした体制で臨もうと考えております。



1 2 . 4 . 理学療法士の Burcu Dilek (トルコ) がニューロリハ研究センターで研修をしました

2018年2月13日～21日、理学療法士の Burcu Dilek がニューロリハビリテーション研究センターで研修をしていました。彼女は博士号をもつトルコの理学療法士で、痛みのリハビリを専門にしている研究者です。博士後期課程 今井亮太さんの運動錯覚の論文を Pubmed でみつけて、森岡 周 教授とニューロリハビリテーション研究センターの存在を知り、「是非とも畿央大学ニューロ研究センターへ行ってみたい!」ということになり、約20時間かけて日本へやってきました。実際の研修では、「痛み条件付け研究」「腰痛の運動学研究」「感覚-運動統合の研究」「ラバーハンド研究」「ミラーセラピー研究」 etc…と、多くの痛み研究を体験・共有・意見交換することができました。特に、近赤外脳機能計測法 (fNIRS) や、脳波 (EEG) での痛み研究について興味があったようで、研究の困難さや面白さを共有できました。大学院生の研究がきっかけとなって、今回のような機会が得られたことはニューロ研究センターにとって価値あることかと思しますので、今後も共同で研究を進めていければと思います。

